

2021年度

国語入試問題

(2021年2月4日実施)

座席番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【注意】

1. 解答はすべて「解答用紙」の所定の欄に記入してください。
2. 問題用紙および解答用紙は持ち帰ってはいけません。
3. 使用用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、HB、B）、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のものは不可）とし、それ以外の使用は認めない。

解答用紙はマークセンス方式および記述式です。

1. 解答用紙は、汚したり折り曲げたりしないこと。
2. マークの記入に際しては、解答用紙に示されたマーク記入例に従って黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、HB、B）で正確に記入すること。
3. 記入間違いは、消しゴムで完全に消してから記入すること。
4. 座席番号記入欄には座席番号を、解答欄にはマークを記入する、あるいは記述すること。

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いつの時代でも新しいメディアが普及しはじめると、必ずと言っていいほどそのメディアに対して批判の声がわき起こる。新しいものに対して(a)キョヒ反応を示す「ネオフォビア (neophobia)」は、メディアやコミュニケーションに関する技術革新においてとくに(b)ケンチヨだ。

コミュニケーション技術として最も古く、また人類の進化史上画期的であったものに「文字」がある。文字の起源は、今から五〇〇〇年以上前のメソポタミアで使われた楔形文字くさびがたとも言われるが、人類史において長らく独占的なコミュニケーション手段の地位を占めていた「声」を視覚化し、その内容の保存を可能としたことだけでも文化の発展に及ぼした影響力は計り知れない。

文字はやがてパピルスや羊皮紙に記されて書物となる。羊皮紙は一頭の羊からA2の大きさで四枚程度しか取れず高価であったので、古代ギリシアなどでは主にパピルスが用いられた。もちろんパピルスも主に材料はエジプトからの輸入にたより、加工にも多大な労役を要したので高価ではあった。

古代ギリシアの哲学者プラトン(B C 四二七―三四七)は現代に至るまで読み継がれる多くの書物を後世に残したが、『パイドロス』(成立はB C 三七〇年代)の中で、ソクラテスの口を借りて次のような伝説を語り、「文字」を批判している。

昔、エジプトの一地方に住む発明の神テウトがいて、神々の王タモスに言った。「私の発明した文字というものは、記憶と知恵の秘訣ひけつ、これによりエジプト人たちの知恵はたかまり、もの覚えはよくなりましょう」。それに対しタモスが答えた。

「技術を生み出す力をもった人と、生み出された技術がそれを使う人々にどのような害を与え、どのような益をもたらすかをAする力をもった人とは、別の者なのだ。人々がこの文字というものを学ぶと、記憶力の訓練がなごりにされるため、その人たちの魂の中には、忘れっぽい性質が植えつけられる。それは、書いたものを信頼して、ものを思い出すのに、自分以外のものに彫りつけられたしるしによって外から思い出すようになり、自分で自分の力によって内から思い出すことをしないようになるからだ。また、あなたがこれを学ぶ人たちに与える知恵というのは、知恵の外見であって、真実の知恵ではない。彼らはあなたのおかげで、親しく教えを受けなくてももの知りになるため、多くの場合、ほんとうは何も知らないでいながら、見かけだけはひじょうな(c)ハクシキ家であると思われるようになるだろうし、また知者となる代わりに、知者であるといううぬぼれだけが発達するため、つき合いくい人間になるだろう」。

さらに、ソクラテスの台詞せりふとしてこう述べる。

「絵画が創り出したものは、あたかも生きているかのようにきちんと立っているが、君が何かをたずねても沈黙して答えない。書かれた言葉もこれと同じで、何か教えてもらおうと質問しても、何も答えてくれない。それに、言葉はひとたび書きものにされると、それを理解する人々のところであるうと、ぜんぜん不適當な人々のところであろうと、おかまいなしに、転々とめぐり歩く。ぜひ話しかけなければならぬ人々にだけ、話しかけ、そうでない人々には黙っているということができない。あやまって取りあつかわれたり、不当にののしられたりしたときには、いつでも、父親である、書いて

た本人の助けを必要とする。自分だけの力では、身をまもることも自分をたすけることもできないのだから」。

だとすれば「(1)書かれた言葉は、ものを知っている人が語る、生命をもち、魂をもった言葉の影にすぎないのか」と問うたバイドロスにソクラテスは「そのとおり」と答える。

『バイドロス』のこの部分は西欧哲学ではたびたび引用され、比較的新しいところではフランスの哲学者デリダやオングも著書で触れている。その中身の検証はさておき、上記の話は、まるで直接的にインターネットを批判しているようでもある。

ここではプラトンが述べている文字の「ア」について議論することが趣旨ではない。技術を生み出す力をもった人と、その価値を「B」する力をもった人とは、別の者だというプラトンの批判は非の打ち所のない正論であるが、そもそもプラトンの言葉自体、文字でパピルスに書き留められていなければ、私たちは知る術もない。どのような画期的な発明であったとしても、文字に始まり、インターネットに至るまで、あらゆる革新的メディアはそれが普及する過程で猛烈な非難を受けてきたということが確実に言える。

たとえば、電話も、アメリカでは、その普及によって人々の直接的交流の機会が減ると懸念された。ワープロでさえ、漢字を忘れる、(2)単なる切り貼りが増える、といった表面的な批判だけでなく、生活に密着した具体的な語が使われることが少なくなり、また内面的思考力が衰えるといった指摘もあった。さらに、日本語文化において受け継がれてきた漢字の書字行為と脳の活動の連動が分断されることで「全体的思考力」が失われると述べた人もいた。彼は、やがて詩人や小説家が「文章作成機」を放棄するだろうとも予言したが、現実には、現在、ほとんどの作家がワープロソフトを用いている。

そうしたメディアの中でもこれまで最も数多く議論が交わされてきたのはテレビだろう。「(3)一億総白痴化」を招くといった私見だけでなく、青少年の学力、攻撃性、犯罪などとの関連が実証的に議論され、また最近も乳幼児の言語発達や空間知覚への悪影響について論争が続いている。

本章では、そのテレビと、近年急激に研究が進んでいるインターネットを中心に、主に社会心理学的アプローチによる実証研究の成果についていくつかの知見を紹介する。青少年の攻撃的傾向の助長や性犯罪との結びつきなど、多くの点でテレビとインターネットで同様の議論が展開されており、テレビに関する研究の知見がそのままインターネットにもあてはまることが少なくない。

テレビについては、様々な国で、それぞれの状況に応じた研究が行われているが、最も研究の蓄積の大きいのが、普及が早かったアメリカである。ここで日米両方の研究結果を比較することにより、「メディアと日本人」について一層、理解を深めることができよう。さらに、章の後半では、我々の生活にもたらした影響という点ではテレビにも劣らないインターネットをめぐる議論についても解説する。

なお、どのメディアも悪影響だけでなく当然、好ましい影響も多い。メディアの世界では、必ずしも社会や人にとって「I」なものだけが生き残るわけではなく、また逆に「悪貨は良貨を駆逐する」わけでもないが、テレビをとってみれば、現実には私たちに与えてくれた恩恵には莫大なものがある。

る。影響に善悪両面ある中で、本章では、弊害があれば、早急に対処すべきであるとして、社会的に問題視されてきた「悪影響」に限定して話を進めることにする。

テレビ普及に先立つラジオの時代から、アメリカではメディアの影響を C する傾向が見られた。その一つの背景として、ナチス政権下のドイツから亡命してきたアドルノやホルクハイマー、フロムらの社会学者の影響が大きい。

アドルノは音楽社会学者として有名だが、ナチス政権下のドイツで権力に盲従する人の心理を分析して「⁽⁴⁾権威主義的パーソナリティ」を提唱し、フロムは自己実現が阻まれた人々が権威に盲従し、自らの自由を自己否定する心理的プロセスを精神分析的に論じた。二人は、ナチスの躍進の理由をその宣伝戦略の卓抜性にあるとみて、とくにラジオの影響力が絶大であることを訴えた。

実際、ナチスは政権を取るや各家庭にラジオの設置を強制し（一九三三年には国内で四五〇万台であったものが一九四五年には一六〇〇万台に増加した）、ラジオ監視官なる役職まで設けて、連日「アーリア人種（ナチス的な独善的解釈による『ドイツ民族』の優越性）を鼓舞するヒトラーの演説や^(注4)プロパガンダ報道を流し続けて、結果的に多数のドイツ人を盲従させた。

それを受け、アメリカでは政府内の情報分析機関とは別に「プロパガンダ分析研究所（IPA）」が設立されるなどして本格的な宣伝研究が行われ、ラジオの影響力が強調されていた。同研究所は一九三九年、大衆向けに『プロパガンダ七つの技法（The Fine Art of Propaganda）』を^(d)カンコウとした。これは当時アメリカで多くのリスナーを魅了したと言われるコーリン神父の説教を分析したものであり、その中で分析された技法として、著名人の権威を借りる「証言利用」や、流行に取り残されたくないという大衆心理を利用する「^(注5)バンドワゴン」などは後にテレビのCMでも活用されることになる。

また、一九三九年一〇月にハロウィーンの^(e)ヨキョウとしてオーソン・ウェルズが企画・出演したラジオドラマ「宇宙戦争」（原作はH・G・ウェルズ）が、音楽番組の中に臨時ニュースを挟んでいく、といった当時としては奇抜な演出で、多くの人が火星人の襲来を真実と思いこんでパニックを起こしたとされる事件や、一九四三年九月に女性歌手ケイト・スマイスを使ってラジオの十八時間マラソン放送を行い、一日で三九〇〇万ドルの戦時国債を売り上げたという現象なども、ラジオのもつ影響力を D させるのに寄与した。

その後、アメリカでは、投票行動の分析から、新聞も含めたメディアが限定的な影響力しかもたないことが実証的に明らかになったこともあり（支持候補の「改変」を引き起こす場合はまれで、多くは元々の意見の「補強」をする）、メディアの影響を E する強力効果説がやや下火になるようにしたとき、テレビが驚異的な速度で普及しはじめ、メディアの影響をめぐる議論の中心がラジオからテレビに移行することになった。

テレビの影響についての学術的な研究はアメリカが最も盛んで、世論形成への影響、その中でもとくに投票行動への影響、テレビと学力、青少年の暴力的性格の助長や犯罪との関連、乳幼児の認知発達への影響などについて、多くの研究が行われてきた。

初期の研究として重要なのが、社会学者ウイルバー・シユラムらが、児童の日常的行動や学力など

へのテレビの影響について大規模な調査を実施し、一九六一年に発表した結果である。調査は三年間にわたり、対象はアメリカとカナダの六〇〇〇人の子どもであるが、二〇〇〇組の両親と三〇〇人の教師にも協力を仰いでいる。

その結論は極めて明晰である。すなわち、テレビは様々な要因の内の一つに過ぎず、その作用も子どもによって異なる。「テレビが子どもにとって悪いとか良いとか言うことはできない。ある条件のもとで、ある種の番組は、特定の子どもにとって II である。しかし、同一の番組でも、別の条件のもとにおいて、同じ子どもに対して、または、同一条件のもとにおかれた別の子どもにとっては、III であることもありうる。最も普通の条件において、たいていのテレビ番組は、ほとんどの子どもにとって、格別 IV でも V でもない」。

この結論はまったくの正論であり、現在でも妥当する。

(橋元良明『メディアと日本人——変わりゆく日常』出題の都合上、一部中略した箇所がある。)

(注1) パイドロス……プラトンの中期対話篇の一つ。

(注2) ソクラテス……ギリシアの哲学者。プラトンの師。

(注3) オング……一九二二〜二〇〇三。アメリカの哲学者。

(注4) プロパガンダ……宣伝。特に、主義・思想の宣伝。

(注5) バンドワゴン……もともとは行列の先頭にいる楽隊車を意味したが、「バンドワゴンに乗る」という慣用表現は「時流に乗る」ことを意味する。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

- (a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) キヨヒ 1

- ① 商いのキヨカを得る。
- ② キョジユウ環境を整える。
- ③ マイキヨにいとまがない。
- ④ 瓦礫がれきをテッキヨする。
- ⑤ 免疫キョゼツ反応。

(b) ケンチヨ 2

- ① 実体双眼ケンビキヨウ。
- ② ケンチジとの面会。
- ③ 会長と社長をケンニンする。
- ④ ケンゴウとの勝負。
- ⑤ シュトケンの交通網。

(c) ハクシキ 3

- ① 高齢化にハクシヤがかかる。
- ② 万国ハ克蘭会を開く。
- ③ 称号をハクダツする。
- ④ ケイハクな言動を控える。
- ⑤ 大型船が港にテイハクする。

(d) カンコウ 4

- ① カンゼン懲悪の時代劇。
- ② 最新のセンスイカン。
- ③ カンダイな措置。
- ④ 新聞のチヨウカンを読む。
- ⑤ 混雑がカンワする。

(e) ヨキヨウ 5

- ① ゲンコウの執筆。
- ② テッコウセキの産出。
- ③ 殖産コウギヨウを掲げる。
- ④ 大規模なコウズイ。
- ⑤ オヤコウコウな息子。

問2 空欄 のうち、二箇所には「判別」が入り、残りの三箇所には「過大視」が入る。「判別」が入る箇所の空欄の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

- ① AとB ② AとC ③ AとE ④ BとD ⑤ CとE

問3 空欄 には、①「有益」と②「有害」のいずれかが入る。空欄に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

- ① $\begin{array}{c} \text{a} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{b} \end{array}$ ② $\begin{array}{c} \text{a} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{b} \end{array}$ ③ $\begin{array}{c} \text{b} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{a} \end{array}$ ④ $\begin{array}{c} \text{b} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{a} \\ | \\ \text{b} \end{array}$ ⑤ $\begin{array}{c} \text{b} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{b} \\ | \\ \text{a} \end{array}$

問4 傍線部(1)「書かれた言葉は、ものを知っている人が語る、生命をもち、魂をもった言葉の影にすぎない」とあるが、その理由の説明として**適当でないもの**を、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は、。

- ① 記憶力の訓練がなおざりにされてしまい、その人たちの魂には忘れっぽい性質が植えつけられる恐れがあるから。
- ② 学ぶ人たちに与える知恵というものは、しょせんは知恵の外見に過ぎず、真実の知恵ではないから。
- ③ あやまって取りあつかわれたり、不当にのしられたりするときには、書いた本人の助けを必要とするから。
- ④ 書かれた言葉に対して、何かを教えてもらおうと質問したくとも、それは何も答えてくれないから。
- ⑤ 文字やインターネットというものは、それが普及する過程において、実体のない脱け殻のようになってしまうから。

問5 空欄 ア に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

9。

- ① 明暗
- ② 好悪
- ③ 美醜
- ④ 功罪
- ⑤ 清濁

問6 傍線部(2)「単なる切り貼りが増える」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も

適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

10。

- ① 文字を書くという行為と思考力を旺盛にすることは関係がないこと。
- ② 書いたものを抜き取ってきただけで、自力で考え出したものではないこと。
- ③ うぬぼれ屋さんが増えるだけで、本来の批判精神は生まれて来ないこと。
- ④ 木に竹を接ぐようにうまくバランスがとれないことが増えてくること。
- ⑤ 切ったり貼ったりしてでたためな理屈になってしまっていること。

問7 傍線部(3)「一億総白痴化」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次

の中から一つ選びなさい。解答番号は、

11。

- ① 国民全体の思考力や判断力、あるいは想像力などが著しく弱くなること。
- ② およそ一億の国民の運動能力や脳を活性化する書字行為への関心が弱まること。
- ③ テレビに没頭するあまり、現実の世界での生活や人間関係が疎かになること。
- ④ テレビの世界と現実とを混同し、思考力や批判精神が失われること。
- ⑤ テレビに映し出される映像に魅了され、現実世界から目をそらすこと。

問8 傍線部(4)「権威主義的パーソナリティ」とあるが、これはどのようなものか。文中の記述を参

照しながら四十五字以内で説明しなさい。句読点を字数に含む。解答番号は、

12。

問9 筆者の考えとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

13。

- ① 文字というものを学ぶと、書いたものを信頼し、自分で自分の力によって自分自身の内部から思考を生み出すことができなくなり、知者であるといううぬぼれや他者への不信だけが生じてしまう。
- ② 技術を生み出す力をもった人と、その価値を見分ける力をもった人は別であるという文字批判は道理にかなったものであるが、文字がなければプラトンのこの言葉自体を、私たちは知ることができなかった。
- ③ 詩人や小説家はやがて文章作成機であるワープロを放棄するであろうという予言は的を射たものではあったが、現実にはほとんどの作家がワープロソフトを用いていることはひどく残念である。
- ④ アメリカで多くの議論が交わされてきたテレビについては、青少年の学力、攻撃性、犯罪などとの密接な関連が実証的に指摘され、乳幼児の言語発達などへの悪影響についての研究が現在でも続いている。
- ⑤ ナチス政権が「アーリア人種の優越性」を主張するヒトラーの演説などを流し続け、多数の人がそれに盲従した戦時下の経歴から、アメリカの研究機関ではラジオに対して否定的に評価していたことももつともである。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

写真は記録である。それは写真が発明された当初から今日に至るまで一貫して主張され、またそう信じられてきた写真の第一の物質的前提である。たしかに写真は記録であるというテーゼそのものは、すくなくともフィルムとカメラという光学器械を考えた場合、文句のさしはさむ余地のない自明なことがらである。 [A] 映像はつねに何ものかに関する映像であること、外界の事物から自立した映像などというものは、映像という言葉からしても論理的矛盾でしかないことを考える時、それはまず自明なものとなる。一枚の写真を写真たらしめるものは、それを撮る写真家、あるいはカメラを操作する者の意識を超えて、そこに何が写されているか、当の事物の意味がそれを撮る者とそれを見る者との間に了解可能な限りにおいてのみである。この時、人は、写真は記録であるということにこそらく何の疑義もさしはさみはしないであろう。

[B] このような写真の物理的性格が無媒介的に (1) 写真のもつ社会的性格に結びつけられ、それが無批判に受け入れられた時から、写真に限らずテレビ、映画、その他映像一般が今日露呈しているひとつの危機的様相を、すくなくとも原理的には準備しつつあったのではないか。それがおそらくは [A] と呼ばれる時代にあつて、映像の現実からの (a) ユウリ、そしてそこからの物神的浮上を社会的に、そしてなによりもまずわれわれの意識内部において推進する決定的要因をなしたのではないか。もうすこし具体的に言うならば、それはこういうことである。 [C] 写真は現実を反映するその

直接性によって、われわれと現実との間の距離をいちじるしく縮めることに成功した。写真が他のメディアに比して大きなポテンシャルティを持つていたとするならば、おそらくそれを除いてはありえないだろう。とりわけそれが近代の、本来複製技術として発達した写真術が、それに幾層倍するさらなる複製技術、印刷と結合した時、カメラのもつていた潜在能力は明白な具体的力に変わった。それは当初すくなくともその印刷物のサーキュレーション内の不特定多数の読者に、それまで彼ら一人一人から遠くにあつた現実を強引に近づかせてみることに成功した。それは後に一層 (b) センエイな形で、しかもより広く、ほとんどそこから脱け出すことなどできないような呪縛力をもつて映画、そしてテレビにひきつがれることになる。これら映像は正しく現実の似姿であることよつてわれわれを現実に直結させ、同時多発するすべての現実をわれわれ一人一人にほとんど強制的に送り込んでくる。

今、われわれは日々配布される新聞、(c) ザツシ、チラシ、カタログに至る無数の印刷物、またほとんど一日中放映されるテレビを通して大量生産されるおびただしい数の現実、しかも断片的な現実に否応なく直面させられている。ある意味でわれわれがこれほどまでに現実に浸透されつくして生きた時代はかつて一度もなかったに違いない。すくなくとも形式だけをとりあげればそうである。だがそれは本当にわれわれ一人一人によつて生きた現実であるのか否か、それはまたまったく別の問題である。いやそれよりも前にわれわれは映像によつて切りとられた現実を、当の映像はあくまでも現実の似姿であるにすぎないことを忘れて、現実そのものとあまりにも容易に短絡させることによつて、現実ではなく現実の似姿を現実そのものと信じ込んでしまつていのではないか。そのことがまず最初に問われなければならないだろう。

あきらかにわれわれは奇妙なひとつの神話のただ中を生きている。それは今述べた情報時代をわれわれの側から内在的に支える論理である。現実ではなく、現実の似姿を現実と(d)サクシする論理。あるいはまた写真が現実の記録であるという物理的条件をそのまま社会的に拡大して、映像にとどめられた現実をストレートに現実と混同してしまうわれわれの歴史的に形成された感覚にそれは深くかかわっている。むろんのことそれは他ならぬ現代資本主義体制の中では、権力によってわれわれに押しつけられ、強要されたものでもある。

I。そこではすべての情報は管理され、商品となつてわれわれに売りつけられている。そして重要なことは、映像もまたつねに管理され、操作されているという一点である。他のメディア、例えば活字メディアなら、彼らの提供する情報に産業の言葉をかぎとり、最終的には産業社会を支える政治形態、D 国家の言葉をかぎわけることは、活字メディアの歴史の長さ、そこから学びとつたわれわれの側の知恵が比較的容易にさせているかもしれない。だが、映像の記録性への機械的な信仰はぬきがたくわれわれには植えつけられており、

(2) こと映像、写真の問題になるとわれわれはいつも容易に武装を解除されてしまうのだ。だが事はまったく同じである。資本主義社会においては、(3)ブルジョアジーのふりまくすべての普遍性の神話にもかかわりなく、われわれは搾取する者と搾取される者との不可避的に分断されているのだ。そしてこの二者の間に和解などはありえない。今日のA における映像メディアにおいても事の本質は一層鮮烈な形で存在するはずである。ただ、映像の一次的記録性、すべて映っているものは本当に起こっていることである、と信ずるわれわれの感性が事態のもう一つの側面、実際に映像化された現実だけが真の現実であるようにわれわれに受けとらせる彼らの巧妙な手口をばかしてしまうのだ。その選択権はすべて産業の側、資本の側、国家の側が一方的ににぎっている。大衆は相互のコミュニケーション回路を失った情報の一方的な消費者の立場に置かれている。

たかだか一人の写真家の撮る一枚の写真も、それは選択の結果である。そこに写しとられた現実の一センチ右か左かからはそれとは似ても似つかない現実が展ひらがっている。写真は創造ではなく、選択であるとはよく言われる指摘である。その通りであろう。映像は無から有を生ぜしめることはできない。だがその単純な一点から、巨大な組織力によって選択しぬかれた現実だけがわれわれに与えられる。しかもそのように選択された現実だけが現実であると信じ込んでしまったならどうなるか。われわれは一切の自由を彼らに無条件に(e)ジョウトしたことになるだろう。

先にほくはブルジョアジーはその階級の利益から発して、それを守りぬくために国民ネーションという形で国家に統合された彼らの被収奪者に同じ国民どうしという幻影をふきこみ、たかだかブルジョアジーという一支配階級のモラルを人間としての普遍的なモラルにたかめて、われわれの意識までも収奪すると書いたが、このことと、今われわれが問題にしている映像に写しとられた現実はすべて実際に起こっていることだと、だからそれは真実だと信じ込ませる情報産業の巧妙な詐術は奇妙な平行関係をもっているように私には思える。

E その凝集された表現がテレビを初めとするマス・メディアに現れていると言つたらよいだろう。ブルジョア・モラルが人間一般のモラルに昇華され、映像化された現実が普遍的な現実になりかえられる。いずれにせよ、ここには支配者側の普遍性を装った巧みな大衆、人民の操作があることだけは間違いはない。

(注) サークュレイション……流通。流布。循環。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 14、(b) 15、(c) 16、(d) 17、(e) 18。

(a) ユウリ 14

- ① 地方をユウゼイする。
- ② ブユデンを語る。
- ③ ユウゲンな笛の音。
- ④ ユウゼンと構える。
- ⑤ 将来をユウリヨする。

(b) センエイ 15

- ① エイセイ環境。
- ② エイタンの終助詞。
- ③ 十キロのエンエイ。
- ④ 人類のエイチ。
- ⑤ 鈍角とエイカク。

(c) ザツシ 16

- ① フクシ施設を訪れる。
- ② シモン機関。
- ③ ニツシをつける。
- ④ オンシされた逸品。
- ⑤ 金魚のシイク。

(d) サクシ 17

- ① ゼンゴサクを練る。
- ② トウサクした愛情。
- ③ 巻末のサクイン。
- ④ 予算をサクゲンする。
- ⑤ サクサンを希釈する。

(e) ジョウト 18

- ① 深窓のレイジョウ。
- ② ジョウザイの服用。
- ③ 社会的不安をジョウセイする。
- ④ 地位のゼンジョウ。
- ⑤ ジジョウ自縛の状態。

問2 空欄 A 〽 E にはア〽オのいずれかの語が入る。空欄に入る語の組み合わせとして

最も適当なものを、①〽⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、19。

ア あるいは イ さらに ウ だが エ つまり オ なるほど

- ① アーイーウーエーオ
- ② アーウーイーオーエ
- ③ アーオーエーウーイ
- ④ イーアーエーオーウ
- ⑤ イーウーオーエーア

問3 傍線部(1)「写真のもつ社会的性格」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当な

のを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、20。

- ① 画像が現実を描写していることは確かであっても、それをどのように評価するかは私たちの自由であるのに、権力は各人に画一的な評価を強いてくること。
- ② 画像が必ずしも現実を描写しているとは限らないのに、正しく現実の似姿であるように私たちは強制的に認識させられて、あまたの現実には直結させられること。
- ③ 画像は往々にして恣意的な加工を施された現実の似姿に過ぎないことを私たちは自覚している、その美しさに魅せられて世界は幸福であると誤認させられること。
- ④ 画像が事実を描写しているか、虚構を描写しているかは、撮影者の自由であるが、鑑賞者である私たちは、それが事実か虚構か、その都度厳密な判断を迫られること。
- ⑤ 画像は、その物理的性格上現実の正確な反映であることは確かながら、大量生産されるおびただしい数の断片的な現実に私たちは否応なく直面させられていること。

問4 空欄 ア (二箇所ある) は同じ語が入る。空欄に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、21。

- ① 所得格差
- ② 個人主義
- ③ 世界標準
- ④ 情報社会
- ⑤ 国際資本

問5 空欄 に入る一文として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

- ① それを開発する「産学共同」の発展
- ② それを破壊する「軍事産業」の実態
- ③ それを媒介する「意識産業」の存在
- ④ それを暴露する「革命勢力」の奮闘
- ⑤ それを推進する「商業主義」の衰退

問6 傍線部(2)「こと映像、写真の問題になるとわれわれはいとも容易に武装を解除されてしまう」とあるが、なぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

- ① 映像の記録性への機械的な信仰は、有史以来、ぬきがたく私たちに植えつけられていて、私たちは決して抗^{あが}えないから。
- ② 映像の受け手が、メディアが伝える現実を真の現実と混同してしまう感覚にとらわれたままであるから。
- ③ 映像に関するすべての情報は国家によって管理されてから商品となって私たちに売りつけられているから。
- ④ 映像は、あきらかに奇妙なひとつの神話のただ中を生きている私たちにとって、必要不可欠なものだから。
- ⑤ 映像は情報時代を私たちの側から内在的に支える論理そのもので、私たちの実存の実体的な根拠だから。

問7 傍線部(3)「ブルジョアジーのふりまくすべての普^ふ遍^{へん}性^{せい}の神話」とあるが、ここで筆者が「神話」という表現を用いている理由を、文中の記述を参照しながら四十五字以内で説明しなさい。句読点を字数に含む。解答番号は、。

問8 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

25。

- ① 写真、テレビ、映画、その他映像一般は、その物理的性格はそもそも中立的だったが、時代が進むにつれて、政治的な意味が強調されるようになった。
- ② そもそも複製技術である写真術が、それを幾層倍する複製技術である印刷術と結合した結果、写真が潜在的に持つ能力は具体的な力として現れるようになった。
- ③ さまざまなメディアを通じて人間が現実浸透されつくして生きなければならない時代は、二十一世紀以前には一度もなかった。
- ④ 映像メディアについて、支配者階級による大衆、人民の操作をかきわけるのは、資本主義社会においてブルジョアジーがふきこむ幻影を見抜くよりも難しい。
- ⑤ 映像についての筆者の立場からすると、アニメーションやCGも無から有を生ぜしめることはできず、現存する対象を描出しようと選択するに過ぎない。

国語（20210204） 解答一覧

大問	小問	解答番号	正解
問題 I	問 1	1	⑤
		2	①
		3	②
		4	④
		5	③
	問 2	6	①
	問 3	7	②
	問 4	8	⑤
	問 5	9	④
	問 6	10	②
	問 7	11	①
	問 8	12	記述問題
問 9	13	②	
問題 II	問 1	14	①
		15	⑤
		16	③
		17	②
		18	④
	問 2	19	⑤
	問 3	20	②
	問 4	21	④
	問 5	22	③
	問 6	23	②
	問 7	24	記述問題
	問 8	25	②